

特集 ◇赤ちゃんにもやさしい
図書館づくり
TOPICS ◇うたっておどって
アフリカ!アフリカ!
◇おとなのための語り
を楽しむ会

特集 赤ちゃんにもやさしい図書館づくり

赤ちゃんを歓迎する図書館に

左京図書館の新たな取り組み



◆親子で絵本選び

幼い子どもが二人、お母さんに絵本を読んでもらっています。もう一人のお母さんが赤ちゃんを抱きながら、一緒に絵本を見て…秋のある日の午前、左京図書館の絵本コーナーで、こんなほほえましい光景を見かけました。

また別の日。乳児と2歳くらいの子どもにお母さんが絵本コーナーでゆっくりと読み聞かせをしながら、本選び。また歩き初めの子どもが乗り物の本をお母さんに指さして示しています。

◆左京図書館の赤ちゃん向けのサービス

赤ちゃんや幼児のために絵本を選びに図書館を利用する人に対応する取り組みが、左京図書館で始まっています。平日午前10時から正午まで、絵本コーナーを「赤ちゃん絵本コーナー」として、優先的に開放するというものです。

図書館には幼い子は連れて行きにくい、と思われがちですが、この取り組みで赤ちゃんの利用を歓迎する表示や館内用ベビーカーなども揃えられました。赤ちゃんにやさしい図書館づくりへの協力を他の利用者へ呼び掛ける表示もあります。

左京図書館が、なぜこのように赤ちゃんに対してのサービスを始めたかは、増田館長が次頁に書いておられます。

◆けやきも親子で絵本を楽しむお手伝いを

またけやきでもこれを受けて、新しい取り組みを始めようとしています。3頁に具体的な活動内容がでて

いますが、赤ちゃんといっしょに来館された親御さんたちにも、絵本そのものや親子で絵本を読むことの楽しさを味わっていただこうと思っています。わたしたちはボランティアの立場で「ぜひ親子で絵本を楽しんで」という思いを込めて、今回の取り組みを始めたいと思います。

◆「誰もが使いやすい図書館」のために

一方、利用者としては、絵本コーナーで子どもに本を読んでやる声、図書館内でどれだけ、影響があるかも気になります。そこで幼児連れの利用がある時に、奥の閲覧席や雑誌コーナーにしばらく居てみました。午前中の図書館は一般に人の出入りもそう多くはなく、落ち着いた雰囲気です。その中で、絵本コーナーで子どもに本を読む声や子どもを相手する声は奥まで少し聞こえてはくるものの、気になるほどではありませんでした。しかし、大人同士（子ども連れに限らず）の無用のおしゃべりの声は大変耳障りに感じました。

様々な人の利用する左京図書館で、幼い子どもたちを見守る余裕をもちながら、利用者それぞれがマナーを守って譲り合っていければと思います。

ところで、公共図書館は本来、たとえ乳幼児であれ大人のおまけや従属物ではなく独立した一利用者として、安全かつ十分な利用が保証されるべき施設です。京都市の図書館が施設面・運営面ともに、誰もが使いやすい図書館となってほしい—それを目指している職員さんや利用者の願いをぜひ叶えたいものです。
(島崎・永井)



赤ちゃんは絵本が大好き

左京図書館館長 増田邦雄

赤ちゃんも図書館へどうぞ！
左京図書館の新しい取り組みを進める増田館長からのメッセージです。

元気ですかー！いつも元気な左京図書館です。今回は、赤ちゃん絵本についての取り組みを紹介したいと思います。

「赤ちゃんは絵本が大好き。お母さん、お父さんの声が好き。赤ちゃんと一緒に楽しみましょう」。これが左京図書館の赤ちゃん絵本コーナーをアピールするサインです。

赤ちゃんにぜひ、絵本を読んであげてほしいと「赤ちゃん絵本コーナー」を設けました。

昨年10月から「絵本ふれあい事業」が左京保健所で実施されたのがきっかけです。

「絵本ふれあい事業」とは、保健所が実施する8ヶ月検診時に、ボランティアが読み聞かせを行う事業です。全国的には、「ブックスタート」とか「ブックファースト」といわれている事業に似ています。赤ちゃんに読んでほしい絵本のブックリストを掲載した小冊子「ねえ、よんで！」を、検診を受ける赤ちゃんの保護者全員に配布し、図書館の利用を呼びかけるなど、保健所とボランティアそして図書館が、赤ちゃんのために取り組む画期的な事業です。

この事業はただ本を読む子になってほしいという目的ではなく、地域に生まれた赤ちゃん（こどもたち）に心も健やかに育てて欲しいと願う事業だと思えます。そのことから考えても図書館が赤ちゃんのために「何かしなくては」と思ったのです。

「絵本ふれあい事業」をきっかけに絵本に関心を持った赤ちゃんと保護者が、図書館を利用しやすくするために次のような取り組みをしているので紹介します。

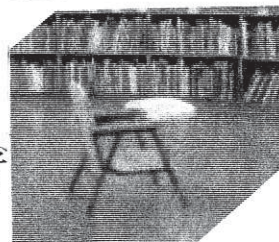
*館内に入ると「えーほん ねえ、よんでコーナー」という表示が目飛び込むようにしています。これは保健所でもらった小冊子と同じネーミングを使っているため「赤ちゃん絵本」のコーナーだとひと目でわかるようにしています。

*絵本コーナーから赤ちゃん絵本を独立させ専用の書架（移動式）を設置。

*平日の午前中は絵本コーナーを赤ちゃんとその保護者に開放。その他の方の利用も可能ですが「赤ちゃんにやさしい図書館づくりにご協力ください」という表示をしています。

*ベビーカーを入り口に1台設置しました。赤ちゃん連れの方にベビーカーを使ってゆっくり図書館をお楽しみくださいということなのですが、これは図書館利用者に対するメッセージでもあります。赤ちゃんも図書館の利用者です。赤ちゃんが泣いても、温かく見守ってください、というメッセージなのです。

*赤ちゃん用の椅子も用意しました。申し出があれば貸出しします。高さ18センチぐらいの本当に小さい椅子



左京図書館

新規購入の赤ちゃん絵本から

あっちむいてほい	やだましろう作	ポプラ社	とつとことつとこ	まついのりこ作	童心社
いないいないばー	なかえよし作	ポプラ社	ともものぼくぼくぼくん	きたやまようこ作	主婦の友社
おたんじょうび	まついのりこ作	偕成社	ぴょーん	まつおかたつひで作	ポプラ社
だからこぶたちちゃん	きたやまようこ作	偕成社	みつけたよ	広瀬克也作	主婦の友社
たたくとぼん	寺村輝夫作	あかね書房	よこむいてにこっ	高島純作	絵本館

子です。赤ちゃんは安心して座れます。その椅子に座っている赤ちゃんは本当にかわいいです。

このように赤ちゃんに配慮していることが図書館を利用する人に分かる、見えるようにしたことが図書館の雰囲気大きく変えることになりました。

図書館に赤ちゃんを連れの来館者は飛躍的に増えています。

「絵本が探しやすくなった」「図書館に来るのが楽しみになった」という声もいただくようになりました。



赤ちゃんを抱える若いおかあさんは赤ちゃんを連れてどこかに行きたいと願っているのではないのでしょうか。昨年10月には赤ちゃん向けのおたのしみ会にたくさんの参加者があり「毎回やってほしい」などの声を聞くと、つくづくそのように思います。

「まだ小さいから…」とっていません。赤ちゃんが楽しめる絵本もたくさんあります。左京図書館では赤ちゃんにやさしい図書館づくりをしています。一度お越しください。

図書館に赤ちゃんを迎える

けやきも始めます

図書館ボランティアの試み

数年前から「赤ちゃんに本を」という運動が全国で広がっています。京都市でも昨年、保健所の8カ月の赤ちゃん検診時に絵本を紹介する「絵本ふれあい事業」が、ボランティアを養成して始まりました。これを受ける形で、左京図書館でも「赤ちゃんにもやさしい図書館づくり」がすすめられています。これらは、各所で、いろいろな形でひろまっている「子育て支援」の動きとも連動するものです。

さてそこで、けやきでも、赤ちゃんのための日常的な取り組みができないだろうか、せっかく講習を受けられたふれあい事業のボランティアの方々にも保健所だけでなく図書館でも活動していただけたらと呼び掛けて、昨秋から2回の相談会（11月26日・1月21日）を開きました。

その結果、とにかく始めて、やりながら相談を重ねよう、ということになりました。

現在参加予定者は、けやき会員・会員外含めて、11人です。一人一人が毎月1回責任をもって参加する程度で、この2月から始めています。

（お問い合わせは 752-0136 上田隆子へ）



- * 毎週1回木曜日 10:30~12:00
- * 左京図書館の「えーほん ねえ、よんで！」絵本コーナーに、
- * オレンジ色の図書館ボランティアえぷろんをつけた2、3人が待機して
- * 絵本をよんだり、本選びをお手伝いしたり、絵本についてのお話相手になる

相談会の席で、増田館長は、図書館ボランティアは、いつでも都合のいいときに来館してエプロンをつけ、「みんなの来やすく心地よい図書館のためのこまごまとした心遣いをする」活動だと思えば理想を語っておられました（1月21日）。私たちはまだ公的な場におけるボランティア活動に不慣れです。赤ちゃん絵本コーナーの試みを、一つの始まりにしましょう。（川端）

うたっておどって

アフリカ!アフリカ!

絵本「ジンガくんいちばへいく」の作者
伏原納知子さんを迎えて

♪ジャンボ ジャンボ ブワナ♪一会場に響くスワヒリ語の楽しい歌声で始まった今回の催し。アフリカのコンゴ民主共和国を舞台に描かれた絵本「ジンガくんいちばへいく」の作者伏原納知子（ふしはらのじこ）さん、音楽担当のおきゅんさん、ゴリラダンス担当の森岡みつきーさんとともに、子どもも大人も歌って踊った楽しい集まりになりました。（参加60名）

ジンガくんが市場のおばあさんのところへ卵を届けに行くお話「ジンガくんいちばへいく」を伏原さんが読み聞かせると、子どもたちがひざを寄せ合って絵を見ています。おきゅんさんの歌が市場へ向かう活気を伝え、会場はなごやかな雰囲気。続いて、実際のコンゴの市場がスライドで紹介されました。

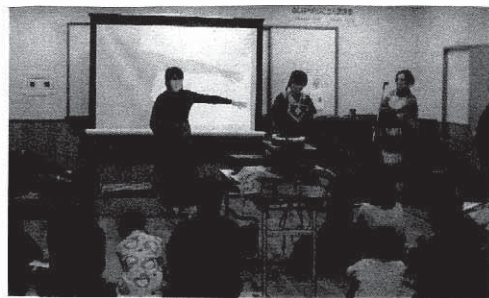
「絵本にでてくる布は実際にこの市場で買ったものです」「市場まで歩いてきた牛が肉になって売られているんですよ」と伏原さん。にぎやかな市場の様子を皆興味津々で見っていました。スライドでは幼稚園や子



福音館書店 02年

参加者の感想から

- ・作者にじかに読んでいただいたのがとてもよかったです。ゴリラ語が言えたら本当に楽しいですね。ジャンボの歌を覚えられてよかったです。
- ・踊って楽しかった。子どももよろこんでいた。
- ・本だけでなく、音楽もダンスもあって、実物もたくさん見られて、文化のことがよく伝わったいい会でした。本当におもしろかったです。
- ・日頃触れることのない文化に触れられ、いい経験ができました。歌も覚え、踊りも楽しめました。



2004年1月17日 於：3階大会議室

どもたちの遊び、自然の有様や、コンゴにしかない東ローランドゴリラも紹介されました。

そこで、絵本「ゴリラとあかいぼうし」のスライドの始まり。テープで流れる「ゴリラ語」の響きを子どもたちはとても楽しんでいました。

この絵本に載っている歌「ゴリラとあそぼう」はコンゴの人たちの歌をもとに作られたそうで、これをみんなで歌って踊ることに。森岡さんの指導でゴリラの動きが入った愉快的ダンスに挑戦。ゴロリところがる場所もあって、さすがに子どもたちが上手でしたが、大人もリズムカルな音楽にのって体を動かしました。ちょっと照れながらも、みんなの顔はうれしそう。

会場には伏原さんがコンゴから持ち帰られた籠や彫物、服なども展示され、参加者が服を着てみたり、籠を頭の上に乗せてみたり、実際に手を触れる体験もできました。

コンゴは今、内戦状態で、子どもたちが戦いに駆り出されています。伏原さんから「アフリカのことをいっぱい知って、親しくなれると、その国で何か起こった時に、気持ちがそちらに向くと思います。これ

- ・歌ったり、踊ったりすることが、とても楽しかったです。
- ・原画展を見てぜひお話を聞きたいと思いました。歌と踊りとお話ととてもとても楽しく過ごさせていただきました。4歳の長男はのじこさんの読み聞かせに目を輝かせて聞かせて頂きました。
- ・いろんなスライドが見られて、具体的にアフリカの暮らしが分かったのでよかったです。「ゴリラとあかいぼうし」のゴリラ語の部分がとてもよかったです。ゴリラの踊り、子どもたちがとても楽しそうでしたね!

は、ジンガくんのいるところのことなんやな、と関心をもってもらえたら…」というお話があり、またゴリラも人も幸せに暮らせるようにとコンゴの人たちが活動している「ポレポレ基金」を日本で応援する活動も紹介されました。

大人も子どもも、ジンガくんやゴリラを身近に感じることのできた今回。耳に残る楽しい音楽とともに「一日も早くジンガくんたちが楽しく暮らせるようになることを祈って」という伏原さんのメッセージも一人一人の心に響いたことと思います。

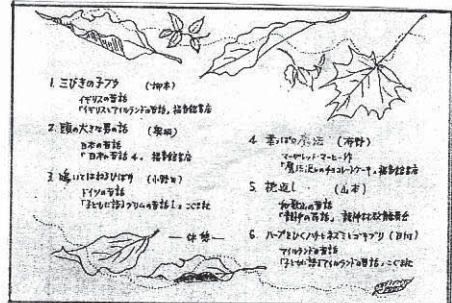
原画展も開催



1月9日～22日には図書館内で絵本『ジンガくんいちばへいく』の原画展も開催。細かく書き込まれた市場の人々の表情など、原画から伝わる表現に、たくさんの方が見入っていました。

また、これからも左京図書館でさまざまな原画展を開催してほしいという声も聞かれました。

おとなのための 第3回 語りを楽しむ会 11月18日



京都おはなしを語る会のメンバーを迎えて、3階会議室で開催。26名の参加者がひととき語り世界を楽しみました。左京図書館に定着してきたこの催し、これからもぜひ続けていきたいですね。

◇参加者の感想から◇

- ・最初は長いお話を（語り手が）覚えておられるのに驚き、次は御自分の声で心を込めて語っておられるのにいつの間にかひきこまれていました。
- ・どのお話も大好きで、語り手の個性も光っていました。
- ・それぞれの語り口がお話に合って、とてもよかったです。
- ・人に語ってもらうのはいいものですね。
- ・「ハーブをひくハチとネズミとゴキブリ」がおもしろかった！またききにきたいな。（小学生の感想）

やぎと少年
アイザック・B・シンガー著
岩波書店 79年
猛吹雪のなか道に迷い、三日三晩をふたりで過ごすやぎと少年のお話。迷子になる話にひかれるのはどうしてだろう。見慣れない景色、せまる闇…。どうかみんな無事にうちへ帰りつけますように。小

「馬頭琴」というモンゴルの民族楽器の由来にまつわる話。貧しい羊飼いが、大切に育てていた白馬を殺されてしまった。深く悲しみながらも、白馬の骨、皮、筋、モモを使って楽器をつくったところ、それを弾くたびに、白馬を殺されたかやしさや、白馬に乗って草原を駆けまわった楽しさを思い出し、いつも自分のそばに白馬がいるような気がしたという。初版は古い冊子が再版が繰り返されている（会員K・下鴨）



大塚勇三再話
赤羽末吉絵
福音館書店 67年

スーホの白い馬

「やぎの本棚」15

わたしの
おすすめの本

学校の教科書にのっていた、やはり吹雪に迷う「少年駅伝夫」の話の思い出したのですが、どなたかご存知ありませんか。（Tさん・北白川）

喪失の国、日本

インド・エリートビジネスマンの「日本体験記」
M・K・シャルマ著

文芸春秋 01年

インドの若きエリートビジネスマンである著者が、市場調査員として一年八ヶ月にわたる父親の影響で幼いころから憧れていた日本に滞在した間に、日本の文化等について感じたことを綴った本です。（T・Mさん・左京図書館）

傷ついた身体、

砕かれた心

アムネスティ・ジェンダーレポート1
女性に対する暴力と虐待

アムネスティ・インターナショナル編著

現代人文社 01年

心にずしりとくる報告書である。紛争下や日常における女性への暴力について目をそむけなくなるほど残酷な事例が紹介されているが、同時にその背景や原因を示すことで、それが身近な現実であることに気づかせてくれる。各国に対する勧告と私たち一人一人が虐待の被害者を支援する方法も掲載されており、未来への示唆となっている。（会員 岩崎れい・下鴨）

